

ヤマハニュース5

YAMAHA NEWS NO. 347 1992

特集●大自然との会話がはずむ——2

もっと広げようセローワールド

列島ぐるり●こんにちはヤマハ紀行④ 10

会津若松 山峡の町に訪れる
モーターサイクルの春

NEW MODEL●トレンドイヤーに変身——18

ヤマハスクーター **JOG** CY50
CY90Z





ゼロワールド

もっと広げよう



若葉が薫り、新緑がセローを愛する仲間たちへ手招きしています。

森が、山が、河が「さあ、セローと一緒にやってこい！」と誘っています。

今号の特集は、オリジナルカテゴリーを確立し、発売7周年を迎えるヤマ

ママウンテントレールセロー225をテーマに、セローオーナーのこたわ

り「セローライフ」。そして、セローワールドの拡大に取り組む店頭活動を探ってみました。今年、初期ユーザの代替期にあたるセロー225。お客さまとのコミュニケーションに、拡販へのヒントにお役立てください。



僕が子供になり セローがカモシカになる 真夏の東北路

セロワールドを地でいく自然派グラフィックデザイナー
大平恒雄さんの「セローライフ」



大平さんの自宅には、フライフィッシングの道具がいっぱい



誰もいない川にひとり…… イワナと過ごす至上の時間

東北の深い山の中。あそこは福島県なのか宮城県なのか、それとも山形県なのだろうか。通い始めてもう何年にもなるというのに、いまだにハッキリと分からない。確認しようと地図を広げてみても、いまいちピンとこないのだ。

大平恒雄さん、34歳、独身。フリーランスのグラフィックデザイナー。

もう何年もセロー・シリーズのカタログや広告を手がけているので、大平さんの作品はみなさんもよくご存じだろう。ちなみに美しい写真の中に登場するモデルも、大平さんご本人である。

その大平さん、毎年セミの鳴く頃になると、愛車セローとともに東北の山へ向かう。趣味のフライフィッシングを楽しむためだ。

「僕もそうなんですけれども、釣り人っていう人種は、元来ぜい沢なのかもしれないですね。周回何キロも人のいない場所で、ゆっくりと釣りを楽しむことに至上の喜びを感じるんです。だからもっと奥へ、もっと奥へとセローを進めてしまおう。東北の「秘密の場所」もそうして見つけたんです」

偶然見つけた驚くほど魚影の濃い山合いの溪流、大平さんはそこを「秘密の場所」と呼んでいる。そこでは仕事のことや都会の生活も忘れて、イワナと人間の純粹かつごく原始的なカケヒキだけを楽しめるのだそうだ。

一旦山へ入ってしまうと、大平さんは数日間川を離れない。寝床は河原のテント、食事はイワナの塩焼きと野草の料理

で過ごしている。しかし大平さんも忙しい人である。「秘密の場所」で過ごす数日間を稼ぐために、机の上に朝まで座っていることも度たびだ。

東京のと真中の仕事場で、デザイン用紙とニラメッコしていた数時間後に、今度は山深い溪流でイワナとニラメッコといった具合である。

夏、大平さんとセローが 一番元気になる季節

「正直に言うと、担当してて面白い仕事とそうじゃない仕事ってあるんです。でも、セローの仕事は間違いなく面白い方の部類ですね」

と大平さん。

それはそうだろう。大平さんがカタログの中で表現しているセローの世界は、そのまま大平さん自身の世界なのである。登場するテントやデイバック、ウェアやその他のキャンプ用品など、撮影の小道具のほとんども、大平さんが普段から愛用しているものなのだから。

引越して2年になるという大平さんの自宅を訪ねてみた。東京都下の閑静な新興住宅地である。仕事場までは約2時間かかるが、その代わり背景に緑の山やまが広がる気持ちのいい場所だ。

「仕事の前にね、ちょこっとセローで出かけて、2時間くらい釣りができるところに住むのが夢だったんです。ですから通勤の2時間も苦になりません」

もうすぐフライフィッシングの、そしてキャンプツーリングの、ベストシーズン。大平さんとセローが、もっとも元気になる季節はもう目の前である。

ゼローと自然がさささやき合っている。
僕は息を止めて「カシヤツ」
充足の瞬間

気の向くままにシューティング
サンデーカメラマン 葭川達也さんの「ゼローライフ」





特集
もっと広げようセローワールド
「セローが愛人」の巻

バイクと写真
ふたつの趣味がひとつになった

ヤマハのユーザークラブ「YESS」の情報誌「WAY」のなかに「アングルを探せ」という読者の写真投稿ページがあるのはご存じだろうか。全国のスタッフから数多くの作品が毎月送られてきているが、その中には必ずといっていいほどセローを被写体（モデル）とした美しい写真がある。何人かのカメラマニア、セローファンが送ってくるのだが、このセローファン達（23歳）もそのひとりである。沼津市に住む藤川さんはもちろんセローファンなのであるが、セローとの付き合いは約1年と意外に浅い。

「車を購入してはじめて、趣味性の強いバイクを選べるようになったんです。それまではバイク1台で遠出も帰省もしていたので、どうしてもロードモデルにかたよってましたね。FZ250フェザーやFZR400RRなど。でも車があれれば、移動はそちらに任せられますから、遊べるバイクはセローとなったわけです」

こうしてセローユーザーとなり、休日ともなるとフィールドに出かけるようになった藤川さんが、セローを題材に写真を撮り始めたキッカケは、その「アングルを探せ」だった。

写真との付き合いはもう7〜8年になるという。友人から一眼レフカメラをゆずり受け、写真を撮り始めた。そんなとき目についたのが「アングルを探せ」に掲載される美しいセローの写真。条件は彼らと一緒。ならば自分もと思った。ここからカメラ片手にセローにまたがる休日が増え始めることになるのだ。

撮るために走る行為は
あくまでも自然体

「もちろんこれまでもバイクを被写体にしたことはありましたが、それが目的ではなかった。でもセローになってからは『撮るため』に出掛ける機会が増えましたね」

藤川さんによると、セローのいいところはどの風景にもマッチするスタイルと、もはやいつくされてはいるが、もう一歩奥へ踏み込める走破性にあるという。「山の向う側を見たくても、行くまでに大変そうだとつい引き返しちゃうけど、セローにはそれが無い。行く気にさせてくれるのかな。セローだからここまでこれた、この風景に出会えたというケースは多いですよ。」

あと思ったときに、すぐに止まるところですね。はっと気づいたときにすぐ立ち止まれる。軽い、足が付きやすい、セルモーターがある。停止、発進が面倒じゃない。セローに綺麗な写真が多いのって、こんなところからきているんじゃないですか」

何が何でも傑作をという意気込みはない。天気の良い休日に、フラッと出かけてトコトコといふ風景を探す。この自然体が藤川さんのお気に入りだ。

これだと思った写真も、後になるとやっぱり物足りない。イメージ通りの撮影は難かしいが、そこが写真の面白さだという藤川さん。寒い時期はフィルムもあり使わないと苦笑うが、今はもうシンズン真つ盛り。プリントされた写真とオドメーターの数字はこれから増えることだろう。



藤川さんの力作。WAYにもよく掲載される

トータルサービス態勢で セローの魅力 100%引き出す

販売からメンテナンス、遊びまでお客さまのベストサポート店をめざす
YSP東小金井さん(竹内俊二店長/東京都小金井市)



「少しでも調子が変わかなと思ったら、すぐに持ち込んで見てもらえる」と窪田さん(左)も100%の信頼を寄せる

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
初任者、早朝平日 ツーリング 月曜休 1/1日曜 O.A. 2/1日曜 OFF AM10:00~12:00 50km 3/1日曜 OFF AM10:00~12:00 50km 4/1日曜 OFF AM10:00~12:00 50km											
初任者メモスケール <23日08> AM10:00~12:00 当日ご購入のスポーツバイクには、1000km点検時に陸軍省が認定したYSPのマークを貼ります。											
当店イベント	YESS. レース	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井	YSP 東小金井
9/20~30 イートアウト(7/11)(西武) 10/10~11 日暮2WAY(西武) 全日本選手権(西武)											
YSP 東小金井 小金井市現野町1-7-34 TEL (0422) 522-9656 FAX (0422) 522-0850											

今年から年間イベントを年頭にスケジュールし、スポーツユーザーに往復ハガキで発送。各イベント情報のDMを希望するかどうかのアンケートを取ってDMリストに活用する

セローは林道が一番似合う
でもそれがすべてじゃない

「セローの持つ世界っていいですよ。緑の山深くまで入って行けるし、自然への憧れを満たすことができるバイクでもそれは、一番の魅力だけれどセローのすべてじゃないでしょう。扱いやすく足つきがよく、気張らず気軽に乗れる。年齢や性別も選ばない。そのうえ低価格。」

いいことづくめですからね。林道ツーリングが好きな人はもちろん、街乗り中心の人だっておすすめします」と話すのは竹内店長。

トレール車というよりは、デュアルパーパス車としてセローを捕えているのだ。ふだんの街乗りにも十分で、それでいて休日は東京を離れて自然と遊ぶ。そんな使い方ができるのがセローなのだ。だから、YSP東小金井さんは昨年一年間でセロー15台を売ったお店でありながら、店頭、店内は特にオフ色を強めた車両展示や店舗を施していない。ただ、主力商品とわかるように店の中央にセロー1やDT200WRが置かれているくらいだ。

「そうですね。ウチはもともとオンとかオフの色づけしてません。YSPがついていうヤマハのスポーツ店として考えれば、どちらかを強調しすぎてお客さんを限定してしまうのはマズイと思うんですよ。それはYSPでなくてもやれることだし。」

私が理想とするのは、お客さんにヤマハのバイクを100%使いこなして楽しんでもらうために、あらゆる「お手伝い」

ができる専門店なんです」と竹内店長。YSPという看板を信じて来てくれたお客さまには、分け隔てなく平等に満足感を提供したいというわけだ。

「最近、バイク離れが激しいって言われているでしょう。でも、そのほとんどはバイクの本当の魅力を知らないから、すぐほかのものに移りしてバイクを降りちゃうんですよ。」

まず自分の目的に合った車種をちゃんと選んで、いつも調子のいい状態で、いろいろ走ってみる。そうすればきっとバイクの良さがわかってもらえるはず。そのために、販売からメンテナンス、遊びまでトータルにお世話できる態勢をつくっています」

だから車種選びに関しては、お客さまの希望車種を変えることもたびたびというほどじっくり相談する。懐ろの広い、多用途なセローは、ここでもいつも候補にあがる主力車だ。

FZR250Rから3台目でセローに買い換えた窪田寿美さんもそうしたお客さまのひとり。

「去年スーパークロスをみて、私もオフロードを走ってみたいと思ったんです。それとロングツーリングが好きなのでオンロードバイクだけじゃ行けないところもあるよ、とか、足つきやポジションがラクだよとか言われて、ああ、そうかとなって……(笑)」

この前初めて九十九里の砂浜へみんなと走りに行ったのですが、すごくおもしろくて、セローにして良かったなあと思いました。もっと慣れたらキャンプツーリングくらいやりたいですね」と満足そうに話してくれた。



特集
もっと広げようセローワールド
「セローの魅力」アピールの巻



セローはどんな遊びにも参加できるのがメリット。いろんなシチュエーションでの楽しみ方を知ってほしい



また、メンテナンスについても、毎日第3日曜日に「初心者メカスクール」を開催したり、1000km点検時にはオーナーを工場に入れてメンテナンスの同時講座を行なう。

メカニカルな面でもバイクに興味を持つてもらうという試みだ。

乗車機会をいかに増やすか 「遊び」の提供が最大の力ギ

しかし、バイクへの興味を定着させるために最も必要かつ有効な手段は、やはりお客さまを走らせること。さまざまなシチュエーションで乗車機会を増やそうと努力する。

特に、楽しむノウハウを知らない初心者に対しては気を配る。今年は4月から毎月1回、初心者対象の「早朝半日ツーリング」を始めた。第1日曜がオン、第2日曜はオフ。

朝6時にスタートして、片道約50kmくらいを走る。ツーリングすることのおもしろさを知ってもらい、走り方のアドバイスをすることだけが目的だから、参加者は店長の目が行き届く少人数に限る。

参加費は1000円。店のイベントだからというケジメの意味だ。
「最初は、セローのご夫婦。八王子から昭島のほうへ、初級用がいい林道があるんですよ。とりあえず喜んでもらえました。」

「けっこう大変なんですけど、これはぜひ続けていくつもりです」

そのほか、竹内店長自身がオフロード好きなこともあって、オンとオフを公平に言いながら「九十九里ビーチラン」とか「オフロードライディングスクール」「東北オフツーリング」、エンデュロレース」などオフイベントが多い。

「オフのほうが、遊ぶ範囲が広いのでついでに多くなりますね。でもこれからは、ツーリングの目的地を決めて、それぞれのバイクに合ったルートで来てもらう方式にしようと思っています。これなら、オンの人はもちろん、セローのようにどっちでも走れるバイクなら、技量や好みに合わせてルートを選べばいいんですから。」

「要は、走るきっかけをたくさんつづけてあげられればいいし、それがウチの、サポートだと思っています」

YSP東小金井 東京都小金井市梶野町1-7-34



●立地

都心へのベッドタウンとして開けるJR中央線沿線の住宅街にある。商圏内には3つの大学を持つ。

●商圏

JR中央線・東小金井駅の北側にスクーターで約3kmほど。スポーツ車は学生同士の紹介が多く、分散している。

●客層

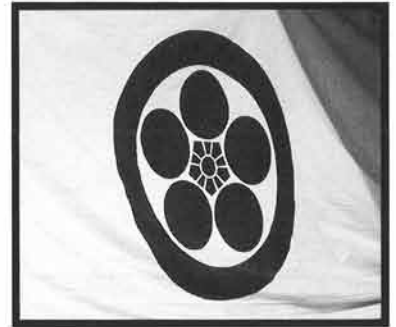
亜細亜、法政、学芸と、3校の大学があるため学生が多く、スポーツでは約30~40%を占める。

●告知活動

周辺の人に店名を覚えてもらう意味でチラシを3~4回、各2万枚。DMは点検、イベント案内などを含め月2回くらい、平均150~160枚。



会津若松



美しき水
豊かな田園に恵まれた
山峡の町に訪れるMCの春

みちのく福島県内陸部、会津地方の中心地・会津若松が春を謳歌するのは遅い。四方を囲む山々と清冽な水、実り豊かな田園に抱かれたこの町は、古い歴史と会津人気質を残し、四季にならい自然と親しむ生活を営んできた。今回は、そんな生活のすべてが一斉に生き生きしはじめる春直前の会津を訪ねた。



古い城下町の面かげを 色濃く残す会津若松

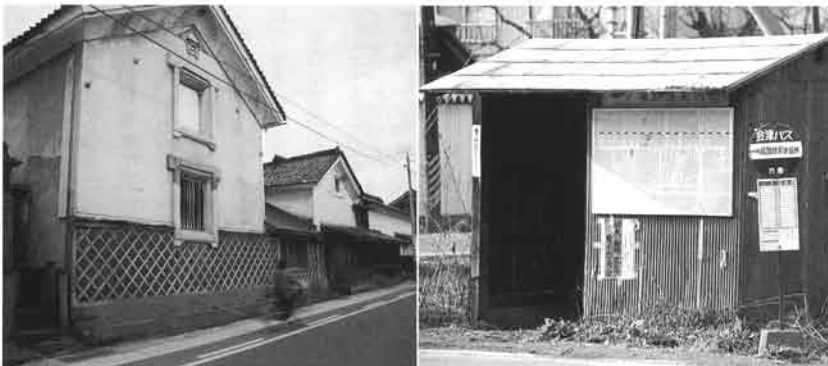
宮城、山形、新潟、栃木の各県と境を接するみちのく福島県は、県内を南北に走る奥羽山脈と阿武隈高地という大きな山なみによって、3つの地方に分けられる。

まず2つの山々にはさまれたところを「中通り」と呼び、福島市や郡山市はここに属する。次に阿武隈高地より太平洋側が「浜通り」と呼ばれ、いわき市などがその中心地。

そして、最も内陸側、奥羽山脈に連なる磐梯山や飯豊山、奥只見といった山々に囲まれ



白虎隊二十士は、ここから遠くにかすむ鶴ヶ城を、燃えていると見違えた



市街、郊外を問わず、あちこちに時の流れを感じさせる建物がある。新しいものを否定するのではなく、古いものを大切に生かそうとする姿勢が根付いている



「エンジンがかかんなくなつたよ」とやってくるおじさんもいる。だから、オフシーズンはメンテナンス、4月から8月は販売、というのがバイクの基本パターンだ。

比較的雪の少ない平地とはいえ、やはり冬の間のバイク稼働は少ない。オフシーズンに

た会津盆地一帯を「会津」と呼ぶ。会津若松市は、14世紀、蘆名直盛が黒川城を築いて以来、この地方の中心地として発達した。

当時は黒川と呼ばれていたが、16世紀後半になって蒲生氏郷が封じられて以後、その出身地であった近江若松の杜にちなんで若松と改称したことが、市名の由来である。

さらに氏郷は、城と城下町の整備に着手。黒川城を鶴ヶ城と改称し、侍屋敷、町屋敷などが画然と並ぶ町割りを施した。その城や古い町並みは今も市を象徴するシンボルとして残され、観光客はもちろん、市民の人々にしても誇るべき文化遺産となっている。

このほか、有名な白虎隊自刃の地である飯盛山やその記念館、武家屋敷など史跡は市街のあちこちにあり、市外にも猪苗代湖畔に会津民俗資料館や野口英世記念館など数多い。

しかし、実際に市街を歩くと、そんな観光化された施設以外のところにも、古い白壁の蔵や看板が目につく。朽ちかけたままにしてあるものもあるが、その多くは商家のためか、新しく補修され、それでもなお決して昔の姿を変えようとはしない。郊外の一般農家でさえも同じである。

もちろん近代的な建築の住宅や店舗も増えてはいるのだろうが、町の人が一体となって歴史の跡を守ろうとする努力を感じた。

変わりゆく時代、変わらぬ町 理想と現実の間で芽吹く夢

君島勝男さん、秀一さん父子が営む「YOSHOP 君島」さんは、会津若松市の南

の外れ、門田町中野にある。

現在は、三代目として父・勝男さんが柱を務めているが、いずれ四代目・秀一さんが跡を取るようになる。

「親子で店をやるのが私の夢でしたから……」と勝男さんは目を細めて笑う。

「自転車屋から始まって65年。私の代でスクーターとビジネス車まで手を広げて、今は息子がスポーツ車でガンバってるよ」

秀一さんは25歳。3年間仙台のYSPで修業して、5年前に店へ戻った。

「バイク屋になることには別に抵抗なかったんです。ただ、自転車がいやだった(笑)。本当を言えば、スポーツだけでやりたかった。

実際、まだ年間20台弱とはいえ年々着実に増えてきているし、遠くからもお客さんは来てくれるようになったからね」と話す秀一さんだが、商圏の半分が農村。要需でいえば自転車やスクーターが切り離せないものであることは十分承知している。

このあたりの高校は、すべてバイクが禁止されていて、多少の距離があろうとも通学はバスか自転車。といってバスの交通網も多くはないから、ほとんど自転車になる。

「小学生から中学、高校、主婦、社会人に至るまで、自転車はやはり売り上げの多くを占めますよ。今時が一番忙しい時期だね」と勝男さんがいうように、中学生とおぼしき子供たちや近所のおじさん、おばさんが入れ代わり立ち代わり往来する。

「エンジンがかかんなくなつたよ」とやってくるおじさんもいる。だから、オフシーズンはメンテナンス、4月から8月は販売、というのがバイクの基本パターンだ。

比較的雪の少ない平地とはいえ、やはり冬の間のバイク稼働は少ない。オフシーズンに



すっかり点検DMなどで種をまき、そして需要期に備える。そしてゴールデンウィークの頃、この付近は梅、桜が矢継ぎ早に花を咲かせ、同時にバイク需要期も幕を開けるのだ。
「理想ばかり言っちゃられないよね。やることはしっかりやる。でも、きつとスポーツ需要はこれから伸びると思う」と秀一さんは意欲的だ。

富士通やオリンピックバスをはじめとした企業の進出によって、若者の流出はかなり減っているし、市街地やその周辺の人口は増えつつある。そういった人々をどう取り込んでいくかが大きなカギ。そこで、

「毎月ツーリングとか、冬は飲み会やってお客さんをあきさせないように、そして、クチコミで紹介客を広げてくれるようにしているのがひとつ。それと、オレがいるからメンテも大丈夫って思われるサービス力を身につけて、店のセールスポイントにしていきたい」という秀一さんに、勝男さんも自分が果たせなかった分の夢を乗せ、協力を惜しまない。

そんなYOU SHOP君島さんの、スポーツユーザー仲間を取りまとめるひとり、渡部仁さんにお会いできた。

「身のほどを知らずたくさんの実をつける」「おいしさのあまり身のほどを知らず食べ過ぎてしまう」とのいわく付きの名産会津身不知柿では有数の出荷数を誇る農家の嫡男である仁さんは、すでに4台目になるDT200WRとJOGを遊びと生活で使い分けている。

「夏場だけだけど、林道とかよく行くね」4月上旬のこの時期はまだ山々の頂上付近に雪が残り、警梯山や背あぶり山などに登る有料道路は通行止めばかりだが、やはりゴールデンウィークを迎える頃には再び賑わいを見せるに違いない。夏ともなれば、それこそ県

内外からとっとバイクや車が押し寄せるといふ。「東京からの行き帰りなら、国道121号線と289号線で白河へ回るルートが混まない」らしい。猪苗代一郡山間が開通したばかりの磐越高速、国道49号線はどっちを使ってもピツシリなんだそうである。

「でも、バイクと同じくらいよくみんなまで酒飲むなあ。そのほうが多いかあ？」
本当に会津の人はお酒が好きである。

**自然の恵み、人の和、歴史
すべてを渾然と醸す会津の酒**
小原庄助さん、なんで身上つぶした朝寝、朝酒、朝湯が大好きで……

と、唄われるように、会津の人のお酒好きは有名である。
会津若松市は、わずか人口11万5000人ほどの町だが、そこに19軒の酒造会社とおよそ4000軒とも言われる「飲み屋」があることから、それは想像にかたくない。

しかし、今度の旅で随分とお世話になった特約店「松坂屋商会」さんの平山雅一社長によれば、酒は「地元での商売にかかせないもの」なのだ。
「ただ、酒を飲む口実がほしただけだよ」と君島秀一さんは笑うが、古い文化、風習が根強く残るこの地では、町内どうし、仲間どうしのさまざまな集いが、大切なコミュニケーションの場となるのは間違いない。

だからこそ、秀一さん自身青年団や消防団などで世話役を引き受けて、顔を売る。し、
「無尽」と呼ばれる仲間どうしの民間金融システムも未だに残っている。
この「無尽」というのは、数人（だいたい12カ月に合わせて12人）で1本のグループ



「YOU SHOP君島」さんでは、昨年、5代目(?)大樹くんが誕生したばかり



整備と自転車の販売で大忙し。そのうちに桜の開花がバイクの春商戦スタートを告げる



3月～4月は、一冬を越したバイクの点検に追われる



冬の仕込みでできたばかりの新酒は、ここで濾過され、一夏を貯蔵庫で過ごしながらか成の秋を待つ

をつくり、毎月全員が一定額を出し合って、順番にひとりづつその月の全額を受け取るというもの。例えばひとりが月に1万円なら、毎月1万円ずつを払う代わり、ある月にはまとめて12万円が手に入るわけだ。

人によって加入する数も額も異なるが、「オヤジは月に7、8本くらい持つてるかな。返ってくる金とはいえ、毎月の負担を考えればけっこう大変なんだよ」と秀一さんは苦笑していた。

ともあれ、こうした集いで席を賑わす酒はすべてが地元の産。隣りに新潟や宮城など、地酒で名高い県があるのだが、「若松市ではどの飲み屋、酒屋に行っても99%よその酒はない」と酒造組合の人も言い切る。それだけ、人々は地の酒のうまさに誇りと愛着があるのだろう。

その酒を育んだのは、言うまでもなく会津の自然である。

酒造りに大切なのは、「一水、二米、三造り」と言われるが、会津の「津」は「ツ」、つまり「川」「洲」の字に由来するとされるように、会津は水が豊富で、日本銘水百選に数えられる磐梯西山麓湧水をはじめ、四方の山に発する清冽な地下伏流水は酒の仕込み水に最適なのだ。

また、市街の周囲に広がる豊かな田園からは、質、量ともに県内随一の米が取れる。ここでは、食用はもちろん、さまざまな種類の酒造好適米がつくられ、地元の需要の9割を満たしている。

そして、冬の厳しい寒さ。人々の生活にとっては辛いだけの寒さが、酒造りにとっては得がたい「寒仕込み」の条件なのだ。

時の領主、蒲生氏郷が若松の名とともに持ち込んだ酒造りは、こうした会津の自然に恵まれ、有名な漆器づくりと並んで郷土の生活文化を支える主要な伝統産業となった。

そして会津の人々は、この酒を愛し、自然と共存し、伝統を守ってきた。

都会化、ミニ東京化が進む今、これからも変わらぬにこの宝を保ち続けてほしいと心から思う。

鶴ヶ城のお堀が桜の花で埋まると、さあ待望の春本番。山々は急速に彩りを増し、町は人々の活気であふれる。

長い冬が終わった。



雲で見えない磐梯山の麓に広がる田園は、秋を迎えると一面が黄金色の絨織に変わる



豊富なアイデアでお店を彩る山本社長と紀子奥さま

今月の達人

YSP前橋(群馬県前橋市)

山本秀人 社長(39歳)

アイデア 拝見

Pint & Hint

ディスプレイ

本格的なバイクシーズンの到来です。お客さまの遊びごころを刺激する店内ディスプレイで、お店を華やかに彩りましょう。

商品の価値感を高める 貴金属店のディスプレイ

いま、店舗の機能が問われています。店舗とは、商品を売る現場なのか、それとも商品を見せるショールームなのか——もちろんその両方を兼ね備えてこそ「輪車販売店」として成り立つわけですが、ショールームとしての比重が高まりつつあるのも事実のようです。そうした流れの中で今回は、ショールーム・ディスプレイの達人、山本秀人社長を訪ねて「YSP前橋」さんにおうかがいしました。

店内に入っただけでまず感じることは、展示車両が極端に少ないことです。イメージアップ用のDT1とRZV500を除けば、商品はわずか3台のみ。入荷したばかりのセロー225と、主力商品のデイバージョンとDT200WRが整然と並んでいるだけです。

「2〜3年前はもっとギッシリと商品を詰め込んでたんですが、いろいろ考えた末、このようにしました。理由はお客さんの質が変わってきたことが一番ですね。少し前までは量がある店に

お客さんは集まったものですけど、いまはまったく違います。商品そのものの価値感を高めることのほうが、お客さんの気持ちにダイレクトに伝わるようですね」

「貴金属店なんかそうじゃないですけど、ズラッと並べているだけじゃなくて、ひとつの商品の価値を高めるために、無駄とも思えるようなケースに入れる。バイクも高額商品なわけですから、考えてみれば当たり前なんですよね」



豊富なヤマハの幹旋ツールで登場感を高める



**お店全体のイメージを
商品展示の方法で向上**

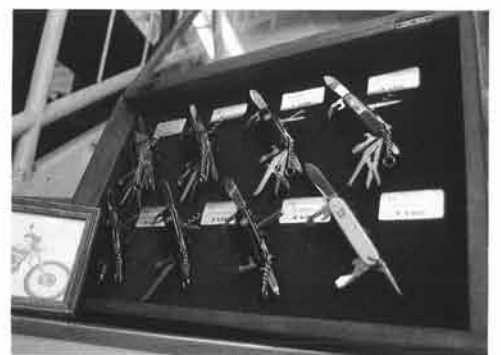
「YSP前橋」さんに入店して、まず目を引くのが入口左手にある展示コーナーです。取材にうかがった時には入荷したばかりのセロー225が展示されていました。このスペースはカテゴリーを問わず、あらゆるバイクライフのシーンを商品主体に演出するために設けられたもの。セローの展示にもテントや小石、イミテーションの木材など多用して、楽しそうなキャンプの一場面が切り取られていました。

「こうしたディスプレイをしていると、お客さんとの会話の機会も増えるんです。商品だけの話ではなくて、もっとつっ込んだ使い方の話までできる。そうした会話の中からお客さんもイメージを広げているようです」

「それと大切なことは、セローのデ



ディスプレイではぜひお客さまとの会話



スブレイが店全体のイメージアップにもつながるといふことなんです。考え方としては「YSP」の看板と同じように、店の顔を作るといふ気持ちでいます」

ホットコーナーとも呼べる入口右手の展示スペースの入れ替えは、ニューモデルの導入期によって左右されるものの、ほぼ1カ月に1度のペース。それ以上同じ展示を続けると、新鮮味が薄れるそうです。

「やっぱり本体を売るための仕掛けには違いありませんが、同時に周辺用品の販売にも結びつくことが多いですね。いまセローと一緒に展示しているウェアはうちのオリジナルなんです。あのように飾ってからオーダーが入るようになりました」

SRV250の発売とともに、ゴールデザインウィーク中にはディスプレイを全面変更する予定。次回はどんなシーンがお店の中に広がるのか、いまから楽しみです。

B君バイクショップワーストインプレは「もっとカッコよくしてほしいよ」

ちやくちやくとB君のライダーへの道は短縮されつつある。と報告したいのだが、おもわぬ“難敵”が出現。季節が何もかも新鮮で微笑んでいるのに、その“難敵”のために16歳を目前にしたB君は絶望感を、いや、本気になってイカっているらしい。

その難敵の実態は次回で紹介しようと思う。今号は、B君とその仲間たちが体験したバイクショップ訪問その印象について、ていってみたい。

その前に、実はB君の一家は長年住み慣れた東京から埼玉県に引っ越した。生まれも育ちも東京のB君にとって、転居地の半径3キロ「トトロ」の世界は、自然に恵まれたなどという不動産のチラシ文句など何の説得力もなく、引越し当日はもちろん、その後10日間も行方をくらまし、マイホームだ、とはしゃぐ両親へ、強烈なパンチをくらわせたのだそうだ。

相当なカルチャーショックに陥っているB君に「いいか、今日からここがお前の故郷だ」とかなんとか父親は叫んだらしいが、「そんなのオヤジの勝手だよ」とばかりに引っ越しボイコットに出たわけだ。

B君をさらに新たな受難が待ち受けていた。当然、高校は埼玉県、校門まで片道13キロを通うはめになった。「クルマから目立つようにしろよ」との父親の忠告をどう理解したのか、F1のステッカーをベタベタに貼りまくった自転車で、ヒイヒイ言いながら通っているのだという。

さらに受難はつづく。ご存じのようにB君の住む県は、高校生にとってバイクの対応へは“鎖国”のような状況で、これがB君をしてイカらしめている原因の第一なのである。

ともかく「トトロ」の世界はアニメでたくさんだとばかり、B君は休日毎に東京の仲間

に会いに行っているのだと、父親は苦笑する。その東京で、B君は生まれて初めてバイクショップ、YSPの自動ドアを開けたのである。B君はボソボソと父親に報告した。

「2軒いったんだ。なんか言われるかなって思ったんだけど、SRに跨がったんだ。やっぱりいいよなあ。お父さんサア、おかしいよ、サンナイって」

まったくもって、16歳前だというのに脈絡のない話し方しやがって、と父親はイラついたが、聞き役に徹した。

「でもサア、バイクショップって格好よくないよ。店はまあまあキレイなんだけど、中の人か格好よくないよ。お父さんが車買うとき、一緒に行ったジャン。コーヒーなんか出でサア、ちゃんとスーツ着てたし、バイク屋さんの格好ダセーよ」

「じゃ、お前、お店の人がネクタイしてて、“いらっしやい”と言ってほしかったのか？」

「ネクタイとかじゃなくても、格好いいなあって感じる服装ってあるじゃないか。店全体が修理工場みたくて、落ち着けないんだよ。車のショールームにも寄ったんだけど、全然ちがうんだ」

「バカヤロー、見てくれて物事判断するんじゃない！」と叫んでも、息子たち世代にインプットされるものの大半が、美的に包まれている現象の中では、ものの本質を理解しろといっても相手はまだ若すぎる。

そうした若者が、新規ユーザー層とすると、接点を見つけるにも時間がある。価値観の違い、とかなたづけるかどうかは、全国の販売店のみなさんにおまかせするとして（ご意見お寄せください）見た目の格好よさが、物選びの基準になっている世代が、きっちりと購入層として頭角を現わしはじめているのだけはまぎれもない現実だ。父親はフッと「商人に糸図なし」の時代かなあ、と呟くのだった。



'92 Y.E.S.S.

地球を走ろう、自然を走ろう。

アースリーラン in 信州

- イベント会場 / 長野県北安曇郡白馬村八方・八方尾根スキー場
- ツーリングエリア / 乗鞍、戸隠、霧が峰、美ヶ原、ピーナスライン他
- 主催 / 全国 Y.E.S.S. ショップ会、全国ヤマハ会
- 後援 / 長野県商工部観光課、長野県北安曇郡白馬村、八方尾根スキー場

8/1・2 SAT SUN

“地球を走ろう、自然を走ろう”をテーマに、ツーリングの楽しさをより深く知っていただくこと、昨年夏に実施した Y.E.S.S. の全国的なミーティングイベント「アースリーラン in 信州」を、今年は白馬村に会場を移して開催します。各種のアウトドア教室やゲストを招いてのトークショーなど、遊びのメニューもますますボリュームアップ。ぜひお客さまをお誘いのうえご参加ください。

※詳しくは担当セールスマンにおたずねください。

心は白馬をかけめぐる。



New
MODEL

ニューカラーで登場

ヤマハスクーター JOGG (CY50/CY90Z)

好評
発売中



ベリータークブルーカクテル3

メーカー希望小売価格：¥129,000/CY50、¥172,000/CY90Z

(北海道および一部離島を除く) ※価格には保険料、税金(含む消費税)、登録にともなう諸費用は含まれません。

シルキーホワイト



メットインタイプのスタイリッシュスクーターとして、根強い人気を得るジョグ・CY50/CY90Zが、落ち着いた最新グラフィック&カラーリングをまとうました。

基調はダーク系とホワイト系。定番スクーターにふさわしい、年齢や性別を超えた人気色です。どうぞ、幅広いお客さまへご案内ください。

カラーリング:ベリータークブルーカクテル3(CY50)、シルキーホワイト(CY50/CY90Z)、ブラック2(CY50/CY90Z)

CY90Z

ブラック2



シルキーホワイト



ブラック2



New PRODUCTS

備えあれば憂いなし ヤマハのレインウェア 最新アイテム

高い機能と快適な着心地、そして群を抜くファッション性で好評を博すヤマハレインウェアに、優れたコストパフォーマンスが自慢の最新アイテムが加わりました。梅雨シーズンも間近です。積極的なご拡販をお願いいたします。

※価格はすべてメーカー希望小売価格です。消費税は含まれません。



ORY-723レインスーツ ¥13,800

さらっとした快適な肌触り。パンツの裾に34cmのファスナーを使用し、靴やブーツをはいたままでの着用がかんたんです。
[その他の特長] ●脱着式ビット用フード ●袖口アジャストフラップ ●上着裏地メッシュ ●レインブルーフポケット ●キャリングバッグ ●衿裏ニット ●エアアウトレット ●ライダー用立体裁断
[素材]表地：ナイロンタフタ/U-PIXコーティング
裏地：ナイロンメッシュ

	M	L	LL
パープル	No.90792-7553M	・L	・X
ピーコックグリーン	No.90792-7554M	・L	・X
フラッシュイエロー	No.90792-7555M	・L	・X
フラッシュグリーン	No.90792-7556M	・L	・X

ORY-724レインスーツ ¥6,900

好評のRY-721と同じ強度の優れたナイロンPVC素材をさらに軽量化して使用。シーリングテープも高周波圧着で高い強度を持っています。

[その他の特長] ●脱着式ビット用フード ●キャリングバッグ ●裾調整式ドットボタン

[素材]表地：ナイロンタフタ/PVCラミネート

	M	L	LL
レッド	No.90792-7557M	・L	・X
パープル	No.90792-7558M	・L	・X
ピーコックグリーン	No.90792-7559M	・L	・X
フラッシュイエロー	No.90792-7560M	・L	・X



○AY-205レインブーツカバー ¥6,300

スリップ防止のためのオリジナルオーバーソール付きのブーツカバー。ふくらはぎ・足首アジャストベルト、シフトチェンジ部アジャストベルト、くるぶしパットなどの最新機能を搭載しました。

[素材]ナイロンPVC/ネオプレン

	M	L
フラッシュイエロー	No.90791-8533M	・L
ブラック	No.90791-8534M	・L
レッド	No.90791-8535M	・L
グリーン	No.90791-8536M	・L

※M(23.0-25.0c) L(25.0-27.5cm)

ロングツーリングの用途を満す機能とデザインを追求しました。高い防水性はもちろん、掌部にはスベリ止め効果の高いアマラを素材に使用。またマイクロテックスは、フッ素樹脂製の多孔質フィルム「マイクロフィルター」に多種素材をラミネートした全天候素材で、水の浸入を防ぎながら汗による水蒸気や熱気、炭酸ガスを放出し、いつもドライな使用感を保ちます。

[素材]甲部：ナイロン100%/ネオプレン
掌部：ナイロン100%/アマラ
インナー：マイクロテックス

	M	L
イエロー	No.90791-6677M	・L
ブラック	No.90791-6678M	・L

○YL-597II レイングローブ ¥6,900





予選、決勝ともにウェットコンディションで行なわれたGP1クラスのスタート

ヤマハが活性化したグランプリに注目!!

レースはR・マモラが5位入賞

'92世界選手権ロードレースシリーズ第1戦 日本グランプリ



④YZR500(コシンスキー)をはじめ、YZR500のエンジンを搭載した⑬ROC YAMAHA(ドミニク・サロン)と⑮HARRIS YAMAHA(ケース・ドゥラッカ)がGP1クラスを盛り上げた



'87年、雨の日本GPで優勝したR・マモラは悪コンディションのなか、積極的な走りで6ポイントを獲得した

GP1クラス(500cc)

順位	ライダー	マシン
1位	M・ドゥラッカ	ホンダ
2位	D・チャンドラー	スズキ
3位	K・シュワーツ	スズキ
4位	伊藤真一	ホンダ
5位	R・マモラ	ヤマハ
6位	大石敬二	スズキ
7位	N・マッケンジー	ヤマハ
8位	本間利彦	ヤマハ
9位	藤原謙彦	ヤマハ
10位	辻本聡	ホンダ

GP2クラス(250cc)

順位	ライダー	マシン
1位	L・カダローラ	ホンダ
2位	岡田忠之	ホンダ
3位	青木重篤	ホンダ
4位	H・ブラドル	ホンダ
5位	P・F・キリ	アプリリア
6位	A・ブーチ	アプリリア
7位	W・ツェーレンベルグ	スズキ
8位	難波恭司	ヤマハ
9位	L・カピロッシ	ホンダ
10位	J・P・ジャンダ	ホンダ

有 効ポイント制の廃止やポイント制の変更。名称も500ccクラス、250ccクラスからGP1、GP2と変わり、新しく生まれかわった世界選手権ロードレース全13戦の開幕戦が、鈴鹿サーキットで開催された。

3 年連続の個人、メーカータイトルの獲得はもちろん、レース界全体の活性化を目指すヤマハは、ワークスチームにYZR500を投入するのはもちろん、ヨーロッパのコンストラクターである「ROC」や「HARRIS」にYZRのエンジンを供給。

これによりGP1クラスは参加台数も増え、最高峰クラスにふさわしい盛り上がりを取りもとした。

路 面ウェット状態で開催されたGP1クラスは、決勝当日の公式練習で好タイムをマークし期待されたウェイン・レイニー、そしてジョン・コ

シンスキーがレース序盤に相次いで転倒。戦列を離れてしまうが、一年ぶりにGP1に姿を見せたランディ・マモラが好走。サイディングラップで転倒を喫するもののスターティンググリッドに戻り、一周目から積極的なレースを展開。ブランクを感じさせない走りで5位でフィニッシュし、8ポイントを獲得した。

ま た昨シーズンはスポットで参戦していたニール・マッケンジーも7位完走。全日本勢の本間利彦、藤原謙彦も8、9位に入る健闘を見せた。

続 いて行なわれたGP2クラスでは、好タイムを記録しながら予選中に倒転。ケガをおして出場した、TZ250Mを駆る難波恭司が3ポイントを獲得。同じくTZ250Mを駆るヨッヘン・シュミットは、11位完走でレースを終えた。

FROM SAFETY

安全対策は欲ばらず一項目徹底実行で ついうっかり、軽い気持ちの油断を防ぐ

風 薫る5月、といいますが、春らしい緑の香りをまっ先に感じる事ができるのがバイクの魅力。特に、ゴールデンウィーク以後はツーリングに最も適した季節を迎えます。事故のないよう、安全には十分気を配って楽しんでほしいものです。

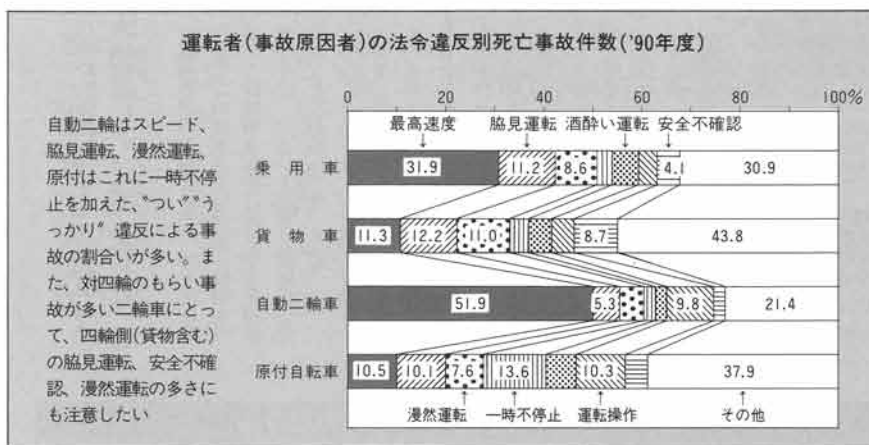
今年1月からの事故状況を見ると、3月半ばですでに交通事故死者は2000名を突破。しかも、その大半は対四輪車による二輪、原付ライダーや歩行者など交通弱者の死亡が多いのが特徴。

どちらに原因があったにせよ、ここ数年、二輪事故死者は着実に減っていただけに、大いに気を引き締め直す必要があります。

この傾向は、東京など大都市圏からさらに地方都市へも広がりつつあると見られており、交通混雑の激化がすすむ都市部では、特に一時停止を怠ったり信号無視といった軽い法規違反が事故につながるケースが多いとの指摘もあります。

むしろツーリングシーズンとはいえ、バイクの利用回数でみれば街乗りのほうが圧倒的に多いし、遠出をするという緊張感のある時より気軽に出かけの近場の市街地走行のほうが、注意が散漫になったり少しの時間を惜しんだりしがちなので、改めて注意したいところです。

東京のある販売店で、20代前半のライダー3人に日頃気をつけている安全対策を聞いてみたところ、3人とも「渋滞路のスリ抜けは慎重に。ちょっと危ないかなと思ったら、絶対に無理はしない」と答え、さらにそのうちのひとりには「交差点内での右左折時安全確認」をあげ、やはり市街地走行での警戒心の強さ



をのぞかせています。

それいながら「たまに不注意な時があって、そんな時に限ってヒヤッとする目にあうんだ」と話してくれました。

しかし、注意するといっても、自分の安全運転のため、そして巻き込まれないため、もし事故にあった時に備えて、など気をつけるべきことは数えあげたらキリがありません。

いきなりあれもこれも、というのでは結局ひとつも身につかず終わってしまいますから、「ひとり1項目徹底遵守」をアドバイスしてみてもどうでしょうか。

例えば昼間点灯や交差点の安全確認などテーマをひとつ選んで、それだけはいつでも自分に言いかせて習慣化させるという方法です。

これから夏に向かう今の時期なら、上着やグローブ、ブーツといった装備、ウェアのことをテーマにするのもいいでしょう。暑いからとか、面倒くさいからという理由で、Tシャツ1枚で走ったり、サンダルでスクーター

に乗ったりするライダーを見かけることがありますが、万一転倒でもしたら……。

大学病院の整形外科に勤める23歳の看護婦さんで、自らセローに乗っているバイク好きの方が、こんな話をしてくれました。

「入院している患者さんのなかに、いつも何人か交通事故でケガをしたライダーがいるんですよ。なかでも、スポーツバイクに乗る若い人ほどケガが重かったりするから、私も人ごとじゃないなって思います。

でも、こんな患者をたくさん診てる先生たちはバイクを危ない乗り物としか思えないみたい。私はそんなことないって言いたいし、ライダーの患者さんの味方になって励ましてあげたいから整形外科を選んだんです。

もちろん、病院に来なくて済めばそれが一番ですけど、もしもころんでケガをすれば、辛いのは何より自分自身。大きなケガにならないよう、ジャンパーやブーツ、グローブとか安全装備だけはいつも忘れないでほしいですね」

人柄が 心が見えます ライディング

第4回Y.E.S.S二輪車セーフスローガンとマンガ募集/スローガンの部・準グランプリ作品



YUTORI
バイクゆとりびと
二輪余裕人

見る・見られる・いい運転。

人とバイクの友好生活

「ANA/YESS IFMAショーをまとめて楽しむ」

「ANA/YESS IFMAショー & F1グランプリ観戦ツアー」とネーミングされたこのプランは、YESSと全日空が提携、YESSスタッフだけを対象に企画したものです。

ヨーロッパ最大のモーターサイクルショーとして知られ、世界中の二輪ファンが注目する「IFMAショー」と、今

SERVICE

次代を担う若き後継者に期待を込めて卒業おめでとう！第9期ヤマハ奨学生

ヤマハ販売店の良き後継者づくりをめざして設けた「ヤマハ奨学生」制度。毎年、ここからフレッシュなニューパワーが巣立っていきますが、今年も3月5日、第9期生21名のみなさんがめでたく修了式を迎えられました。

89年のヤマハ入社以来、3年間にわたり本社および各営業所で厳しい教育

や人気最高のF1・ポルトガルGPを両方とも楽しんでしまおうという、ゼイタクなメニューにロンドン、ケルンの市内観光をプラス。ほかでは味わえない魅力たっぷりのツアーです。新しいYESS特典のひとつとしてぜひ広くご案内ください。

指導を受け、店舗経営者、サービスマンとしてのさまざまな知識、技術を修得。3級整備士をはじめとする各種資格を手に、いよいよ販売の最前線に立つこととなるわけです。

ぜひこれからは、お店のより大きなご発展に向けて思う存分力を発揮してください。おめでとうございます！

■YTSヤマハ二輪車整備士講習会日程

日時	5月	6月
会場		
北海道		
ヤマハ東北		
東京研修センター	2M B 4M 12-14 19-21 26-28	2M 2-4
ヤマハ中部研修会館	2M 13-15	D 4M 16-19 24-26
神戸研修センター		2M 2M 4M 1-3 4-6 24-26
ヤマハ中国	B 広島 B 鳥取 13-15 20-22	B 岡山 9-11
ヤマハ四国	B 徳島 12-14	2M 10-12
福岡研修センター	2M 20-22	

B/ベーシック 2M/2サイクルマスター 4M/4サイクルマスター D/ドクター
※都合により開催日の変更および中止をする場合がありますので、ご了承ください。また、上記以外にも拠点開催のベーシックがありますので、各営業所へお問合せください。

■新刊サービスマニュアル

モデル	注文 No	価格
SRV250	4DN-28197-00	¥3,000
TZR250RS(追補)	3XV-28197-07	¥600

※価格はメーカー希望小売価格です。消費税は含まれません。

■ヤマハ奨学生第9期卒業のみなさん

- 奥野 聡 (サイクルショップおくの)
- 林 浩幸 (YOU SHOPはやし)
- 小菅一志 (昭和輪業商会)
- 塚本 誠 (塚本サイクル)
- 岡田 浩 (YOU SHOPおかだ)
- 加藤積宏 (加藤自野車店)
- 木内吉英 (木内モータース)
- 落合智之 (落合サイクル)
- 水野靖久 (YOU SHOP水野)
- 森下克彦 (森下サイクル)
- 竹内慎治 (YOU SHOP竹内)

- 山住 正 (三ツ星自転車商会)
 - 佐子清孝 (YOU SHOP茨木)
 - 大角信仁 (YOU SHOPおおすみ)
 - 堀尾裕司 (灘オート商会)
 - 米田吉孝 (YOU SHOPよねだ)
 - 牛島孝二 (YOU SHOP牛島)
 - 田中泰道 (サイクランドたなか)
 - 戸田啓介 (YSP徳島西)
 - 加藤剛志 (加藤モータース)
 - 榊 陽市 (榊 兄弟商会)
- ※順不同・敬称略

●ANA/YESS IFMAショー & F1グランプリ観戦ツアー
日程/①9月25日～10月1日
②9月26日～10月2日
※全7日間、東京発着
料金/46万8000円(1名)
募集人員/①②各50名。最少催行人数①②合計45名。定員になり次第締切ります。
募集期間/4月1日～7月31日
申込方法/主催者まで電話で定員をご確認のうえ、申込金5万3000円をお振込み

主催・申込先/近畿日本ツーリスト 株式会社銀座海外旅行支店 ☎03-3562-4911
そのほか詳しくはパンフレット、または直接お電話などでご確認ください。



SAFETY

『セーフティスローガンとマンガ募集』 今年も5月7日から募集開始！

今年で5回目を迎える『YESSE二輪車セーフティスローガンとマンガ募集』キャンペーンが、5月1日から開始となります。

応募作品を考える、ということによって、ライダーひとりひとりの安全意識をより深めていこうとするこのキャンペーンは、年を追うごとに定着化し、

二輪事故防止に大きな役割を果たしてきました。

今年も、昨年を上回るすばらしい作品が数多く寄せられますよう、ぜひお客さまに応募をおすすめください。

厳正な審査のうえ、合計16点を入選作として取り上げ、それぞれの方に賞品も用意しております。

●第5回YESSE二輪車セーフティスローガンとマンガ募集

応募資格/どなたでも応募できます。

賞典/スローガン部門、マンガ部門それぞれに①グランプリ(1作品)

30万円②準グランプリ(2作品)10万円③優秀賞(5作品)3万円

募集期間/5月1日～7月31日

応募要項/ハガキ一枚に1作品(タテ書き)とし、次の方法で応募先まで郵送してください。

番号、キャンペーンを知った場所や広告名、明記
ハガキ裏面/黒インクではっきりと①マンガは1作品1コマ。タイトルを作品の上に、下には応募者名、住所(市区町村名)を明記②スローガンは1作品50字以内
応募先/〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機機内・YESSE本部事務局「セーフティスローガンとマンガ」係
発表/9月上旬に審査のうえ、9月下旬

第4回・マンガ部門グランプリ作品



静岡県磐田市 田中真由美

句を予定。当選者には直接連絡するほか、オートバイ専門誌、WAY、ヤマハニュース、ショップ店頭のパスターなどで発表します。

SUGO

みんなでゆっくり楽しめる レジャープランはSUGOにおまかせ！

ゴールデンウィークを皮切りに、本格的なスポーツ、レジャーシーズンが始まります。

SUGOには、モータースポーツはもちろん、テニスをはじめ各種のプレイ施設がいっぱい。レース観戦するもよし、スポーツで思いきり汗を流すもよし。みなさんのご希望どおりに楽し

んでいただけるよう、数々のイベントやプランも用意しています。

これからの季節、ぜひツーリングやご旅行にご利用ください。

●社員旅行パック

季節ごとのオプションプランやオリジナルプランもお手伝いします。
料金/1万5000円(1名あたり)

内容/宿泊(1泊2食付き)、プレイチケット
問合せ/SUGO東京営業
☎03-3575-4771

●テニスパック

デイゲームはもちろん、ナイターもOKです。
料金/12000円より(1名あたり)

内容/宿泊(1泊2食付き)、入園料
テニスコート代(平日3時間
土曜休日2時間)

問合せ/SUGO仙台営業
☎0224-83-4711

●アイリス・オーヤマ SUGO

グループA・300kmレース
市販車ベースの改造マシンが大迫力のレースを展開。ストップ・ザ・スカイラインGTTRなるか。
日程/5月16・17日
チケット/当日 おとな5000円
子ども1000円
前売 おとな4200円
ペア8000円

A P D

5月のヤマハ提供番組

●ONANDOFF

陸と海、2つの大きなフィールドを舞台に展開するすばらしいヤマハワールドの数かずを紹介する番組です。巧みなカメラワークを駆使した美しい映像と選り抜いたBGMで、話題性に富んだテーマをスポーツマインドたっぷりにお届けします。

▼5月2日(バイク編)
『イラストレーターBOWの世界』

▼5月9日(マリン編)
『ジュニアチャンピオンレガッタ』

▼5月16日(バイク編)
『マンガのようなバイクライフ』

▼5月23日(マリン編)
『クルーザーのファミリーレース』

▼5月30日(バイク編)
『平忠彦ラスト・ラン』

※都合により、一部内容が変更となる場合があります。
※一部地域では放送日が異なります。
テレビ北海道、テレビ東京、テレビ大阪

テレビ愛知、テレビせとうち、ティー・エックス・エヌ九州/毎週土曜日18時30分から18時45分、静岡放送/毎週日曜日10時45分から11時、東北放送/毎週金曜日24時40分から24時55分、テレビ新潟島/毎週木曜日24時35分から24時50分。

●NNN・今日の出来事

毎日のさまざまなニュースやスポーツ情報を、タイムリーにお届けする夜のニュース番組。知的でさわやかな桜井良子キャスターを中心に、それぞれ個性的なキャスター、コメンテーターが切れ味鋭くテーマに迫ります。

日本テレビ系列全国29局ネット。ヤマハ提供・毎週月曜日23時12分～23時55分。
●オリジナルコンサート
私たちの創った世界
世界各国で精力的に活動を続けている(財)ヤマハ音楽振興会「ヤマハ音楽教室」そこで育った世界の子どもたちによる自作自演コンサートの模様をお届けします。日曜の朝をすがすがしく彩る純粋な音楽の響きをゆっくりとお楽しみください。テレビ朝日系全国17局ネット・放送日/毎週日曜日。放送時間/7時30分から8時。



「Vツインスポーツ優等生だ」 SRV250にプレス絶賛!

昨年秋季の東京モーターショーで、最も高い注目を集めた「SRV250」がいよいよデビューしました。

すでに、店頭でも実車を前に話題が大きく広がっていることですが、4月13日・15日には発売に先がけて約30媒体のマスコミ関係者を集めた試乗会を開催しました。

春風の漂う三重県・伊勢志摩国立公園にあるヤマハリゾート「合歓の郷」で、まず参加者のみなさんに製品説明会を実施。企画、開発、技術の各担当スタッフが、それぞれSRV250にかけた思いを情熱たつぷりに解説したところ、「排気音についてこれほど研究しているとは驚いた」「作り手の情熱がよくわかった」と早くも高い関心が寄せられました。



天候にも恵まれ、試乗、撮影は最高のロケーションで行なわれた



ヤマハの各担当スタッフと参加したジャーナリストがじっくり会話。SRV250のより深い理解が得られた

さらに、夜の懇親会ではお酒を片手に各担当スタッフと参加者間でさつぱらなバイク談義に花が咲き、一層お互いの理解を深めたあと、翌日はいよいよその成果を確かめる試乗へと移ります。

試乗コースは、SRV250の性能をじっくり味わえるよう、風光明媚なワインディング「パールロード」に設定。各媒体に1名ずつ、ヤマハのスタッフ同伴で3時間のミニツーリングとなりました。

思い思いに撮影、試乗を終えた参加者は「低速で粘り、高速でもよく伸びるいいエンジン」「250ccと思えない心地よく響く排気音が魅力」「スポーティライディングの基本が生かせるすばらしいハンドリングと操安性だ」と口を揃え、十分にSRV250のよさを理解していただけたようです。

このあと、各誌紙の評価がますます話題を大きく高めてくれるに違いありません。

次世代バイクの大きな可能性をみた! 「ウィスパードンサー」試乗会

北極点に続いて南極点までもバイクを使って走破するという偉業を成し遂げた風間深志さん。その成功のカギには、ヤマハが独自に開発したマシンたちの活躍がありました。



粘り強くトコトコ走るエンジン、乗りやすい車体バランスの良さも好評



「南極へ行ったら終わり、というバイクではない。この技術が今後どう生かされるかが楽しみ」と期待の声が集中



読売新聞社は奨学生の新人研修カリキュラムのひとつに安全指導を加えている

新聞奨学生のみなさんの安全指導に ヤマハ&ニューズメイトが活躍!

バイクは、趣味の利用だけに限らずビジネスユースでも重要な機動力として活躍する場面がたくさんあります。しかも、そのほとんどは毎日、交通

量の多い道をなるべく短時間で移動しなければならぬことが多く、事故に対する危険度は趣味での利用よりずっと高くなっています。

そこで、ヤマハ安全運転推進本部では、こうしたビジネスユースでバイクを使う事業所に協力してさまざまな安全運転指導を行なっていますが、読売新聞は、各専売店を通じて多くのバイクを配達用に利用しているため、毎年新人奨学生を対象に重なり方指導を行なって事故防止に努めている会社のひとつです。

これに参加する奨学生は、高校を卒業後、原付免許を取得したばかりという人たちがほとんど。そのため、ヤマ

「そのマシンが、実際どんな走りをするのか、バイク好きなら誰もが興味津々たるところでしよう。」

そこでヤマハは、3月20日、長野県小県郡湯の丸スキー場近くの雪原で、およそ20名のマスコミ関係者を招いた試乗会を開催しました。

新雪地帯、ギャップなど、さまざまな条件の中、思存分のテスト走行を楽しんだ参加者たちは、熱っぽくその印象を語り合いましたが、「こんなふう」に雪の上でも遊べるバイクがほしい」「フルカバの車体デザインが新しい」「低騒音、低排気ガスという試みは大歓迎。ぜひ市販車に生かしてほしい」などの意見が続出。

「ウィスパードンサー」に盛り込まれたアイデアや技術のひとつひとつに、次世代のバイク像を予感し、その実現に大きな期待を寄せていました。



練習が足りない人には、追加実技講習も実施

ハ安全運転推進本部は今年も3月7日と19日の2日間、計200名を集め、実際に配達で使うニューズメイトで講習と実走行練習を行ないました。

また今回は、ヤマハの要請に応じて福岡県交通機動隊・特別訓練係の白警バイ隊員7名も協力。ヤマハ指導員と合わせて14名の指導により、密度の濃い講習会となりました。

『ATVサロマカップ』開催！ 日本ホットなアイスレースをめざす



滑る氷の上で、いかにマシンをムダなく前へ進ませるかが最大のポイント

冬のモータースポーツ、といえばスノーモビルばかりではありません。独特のオフロード走破力とドライブフィーリングで人気のATVも、使い方しだいではこんな遊び方ができる、と始まったのが『ATVサロマカップ氷上レース』です。

北海道常呂郡佐呂間町の凍ったサロマ湖を舞台に繰り広げられるこのイベントは、地元新聞やテレビで大々取り上げられ、ATVフリークの間ではすでに全国的に知られています。そのため、年々規模も大きくなり、今年も3月8日、約150名の参加者を集めて行なわれました。今回は、モトクロス国際A級ライダー鈴木秀明選手も出場。さすがに氷が



主催者の諸岡公次さんは、誰もが気楽に参加できる日本一の草レースにしたいと意欲的

相手では勝手が違うのか、ツルツル路面に悪戦苦闘。最初のスプリントレースは入賞を逃がしてしまいます。しかし、耐久レースが始まる頃にはすっかりカンをつかみ、国際A級らしい見事な走りです。2位入賞を果たし、大いに大会を盛り上げました。

『ジェットツーリングin沖縄』を満喫 チャレ2完走者にビッグな賞典

91年のYESS年間キャンペーンとして好評を博した『チャレンジ・ザ・2リング』ステージー完走者のなかから抽選で選ばれた10名のYESSスタッフを招待する『ジェットツーリングin沖縄』が、3月21日〜23日の3日間わたって開催されました。

全国から選ばれた幸運な参加者のみなさんは、東京、大阪、名古屋、福岡の各空港を発って次々と那覇空港に到着。沖縄ヤマハ側で、デイバージョンやジールなど、ヤマハが用意したバイクを受け取って、プレセントされたお揃いのブルゾン姿でさっそく島内ツーリングに出かけました。



青い海、ブルーベンリア。南国沖縄の雰囲気一杯の海岸線を走る

2日目はあいにく雨となりましたが、それでも美しく青い沖縄の海に歓声をあげつつ全行程200kmの走行を満喫



この旅でまた新しい仲間めぐり合った

さらには現地のライダーとの食事会や観光、ショッピングなど走行以外のメニューもいっぱい。沖縄での3日間をニコニコ顔で過ごした参加者たちは、次の再会を約束し合って帰路につきました。

『ナイスライド募金』感謝状贈呈 善意の努力をありがとう！

今年で4年目を迎えた『YESSナイスライド募金』は、販売店のみなさんやライダーひとりひとりの善意に支え



ヤマハ東京・村木社長(右)より感謝状が手渡された

られ、年々着実な成果をあげています。去る1月28日には、昨年1年間の募金40万3149円を日本盲導犬協会に寄贈しましたが、その後、同協会より感謝状が寄せられており、ヤマハ東京側では3月18日、該当の販売店さん5店をお招きして贈呈式を行ないました。今回選ばれたYSP藤沢、YOU SHOPヒーローズ、トヨーオート、YSP松戸、森悦サイクルのみなさんは、全国合計の約3分の1を占めた東京圏でも、特に貢献が大きかったお店で、各イベントのチャリティ活動などを利用したり、積極的なご尽力が高い成果につながったようです。

児童向け交通安全教室に活躍 ヤマハレジャーカート

3月13日、静岡県・浜松東警察署が開いた幼稚園児向けの交通安全教室で、パトカーそっくりのヤマハレジャーカートが一目見えました。

これは、ヤマハ安全運転推進本部が寄贈したもので、おなじみの白黒ベイントに警察マーク、赤色灯などの装飾が施され、子どもたちは「本物のパトカーよりカッコイイ」と大喜び。おまわりさんと一緒に乗ってコースを一周したり、交差点や横断歩道の渡り方を教わりましたが、同署の野村交通課長も「いつもより興味を持って参加してくれたというようだ」と満足げな様子でした。歩行者の事故が急増している昨今、これからも、パトカーの活躍を大いに期待したいものです。



つま恋やSUGOなどのランド内で利用されているレジャーカートLK285がベース

日本サッカーリーグ27年 最後の年をヤマハ3位で終了

日本のサッカー界は、来年5月の日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）発足に向けてその環境を大きく変えようとしています。

それにより、これまで27年間、国内の頂点を争ってきた日本サッカーリーグ（JSL）も、Jリーグに引き継ぐ形で今年ついに閉幕。長い歴史にピリオドを打ちました。

そんななかで、創部以来20年の伝統を持つヤマハサッカー部は、79年に念願の一部昇格を果たし、'82年天皇杯で初優勝、'87年には無敗のままJSL優勝を飾るなど、国内有数の強豪チームとして活躍。JSL最後の第27回大会も、後期5連勝を含む大健闘を見せ3位の座に名を残しました。

さらにヤマハの中山雅史選手は、計15得点をあげて読売クラブのトニーニョ選手と激しい得点争いを展開。惜



天皇杯、JSL、コニカ杯、JSLカップから代表4チームが参加する「チャンピオンズカップ」にも出場を果たした



中山選手の得点争いに期待が集まった

しくもタイトル獲得には至りませんでした。2位となり、多くのファンを熱狂させました。

また、Jリーグの第一期参加チームとしては残念ながらもれてしまったヤマハですが、地元ぐるみの熱心なご支援もいたし、Jリーグ参加に向け着々と体制固めを進行中。早い時期の実現に内外の期待が集まっています。

それまでは、Jリーグと分かれてJSLを引き継ぐ日本フットボールリーグ（JFL）のJリーグ（今年7月開幕）に出場。新たなタイトル獲得をめざして、再びすばらしいゲームを見せてくれるに違いありません。



JSL最終戦には9000名の観客がヤマハ東山サッカー場を埋め、ヤマハのJリーグ参入を求める大決起集会が行われた

「ニッポン」の健闘に高い評価！ 『アメリカスカップ'92』

ヨットレースの世界最高峰「アメリカスカップ」挑戦艇を決める「ルイ・ヴィトンカップレース」に出場していた「ニッポン」チームは、ベスト4が顔を揃える準決勝で2勝7敗、惜しくも決勝進出はなりませんでした。

しかし、日本から初のチャレンジャーの予選一位を獲得したすばらしいクルーワーク、優秀な艇建造技術、シジケート構成力などに対し、海外の評価は目を追うことに高まるばかり。

とりわけ、4月5日の対イタリア戦で、ブーム（メインセイルを張り、またコントロールをするために不可欠な支柱、折損という致命的なトラブルに見舞われながらレースを続行、敗れはしたものの決してひるむことなく全力を尽くした戦いぶりには、世界中のセイラーがシーマンシップとは何かにつ

いて、多くのことを学ばらう」「日本人のすべてが誇りに感じるのだらう」「アメリカスカップにシーマンシップ賞というものがあれば、ニッポンがそれを受けるべきだ」など、マスコミや他チーム、大会関係者たちから「ご



海洋国・日本の技術力、シーマンシップの高さをあらためてアピールした

って絶賛の声が寄せられました。
「2位は存在しない」とまで言われる厳しい勝負の世界、アメリカスカップにおいて、ニッポンの勝敗をこえた海に生きる精神と、それを裏づける技術がこれほどに評価されたことは、なぜアメリカスカップに挑戦するのか」という問いに対するひとつの回答といえるでしょう。

なお、挑戦艇決定戦の決勝は、ニュージーランドとイタリアの間で4月19日より行なわれています。

'92 YAMAHA NOVELTY

キャンパスライフを演出

■B'sスーパーキット
(No.373066/1200円)
シャープペンシルとラインマーカー、クリップ、タックメモなどを、おしゃれなケースにひとまとめ。携帯に便利なステーションリーセット。



■ハンディケース
(No.373093/4000円)
ソフトボンディング素材を使用した、軽くて丈夫なハンディサイズのポーチ。オーソドックスなデザインで長く愛用いただけます。

■マリンポーチ
(No.373028/700円)
マリンイメージのブルーにホワイトレターが涼しげな、スポーティハンドポーチ。手回りの小物を、なんでもスッキリ収納します。プレゼントにも手頃な一品。



■トートバッグ
(No.373017/3200円)
丈夫なキャンパス素材は、スポーツ、ショッピング、通学など、ラフな使い方をしてもへっちゃんら、気軽に使い回せる便利なバッグ。



●全日本モトクロス選手権シリーズ第1戦関東大会
「チームYZ」1・2・3フィニッシュ!
総合も大河原功次が制す



並いるワークス勢、ベテランを相手に、一市販車で表彰台を独占した(左から)2位増田、1位大河原、3位鈴木の「チームYZ」トリオ



予選トップ、第1ヒートも2位。A級3年目で初優勝を果たした大河原

新しい体制、新しいマシンと、興味のつきない全日本モトクロス選手権シリーズの開幕戦が、4月5日、富士スピードウェイモトクロスコースで開催された。前夜から降り始めた雨のため、コースコンディションが悪化、国際A級250CCクラスヒート1は、30分を前にレースが中断されるほどのマディ状態だった。雨こそやんだものの、モトクロスサーのフルパワーで荒されたコースで行なわれたヒート2では、ヤマハが育ててきた若い力が大活躍。ヤマハがサポートする「チームYZ」の大河原功次、増田智義、鈴木健二が、並いるワークスライダーを相手に、1・2・3フィニッシュを決めた。

スタックが続出し、めまぐるしくトツプが入れ替わるサバイバル戦を制した大河原はA級3年目の18歳。いつトップに立ったか良くわからなかった。ラスト1周で勝てると思った」と、初優勝の感想を興奮気味に語った。2位の増田は、'92YZをデビュー＆ウインに導いた、21歳のA級4年生。「みんなで1・2・3をやるうって、いつも話してたんですよ」とトップ走行中に転倒したくやしきもなく、素直にチームの活躍を喜ぶ。3位の鈴木は1周目に転倒、ゴーグルをはずしての後方からの追い上げで3位入賞を果たした。

シリーズは始まったばかりで、タイトルの話しはまだはやいが、この「チームYZ」の若手トリオが、全日本を面白くしてくれることは間違いなさそうだ。

Racing
RExpress



●全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦・筑波大会
藤原儀彦、タイトル奪回へVスタート

第1戦、MINE大会が豪雨のため中止となり、500cc、250ccクラスには事実上の開幕戦となった第2戦・筑波大会。決勝前夜に降った雨もレース前には乾き、各クラスともドライコンディションでのレースとなった。

2年連続のランキング2位、藤原儀彦は予選3番手のスタート。まずまずのダッシュを見たが、1周目のヘアピンでハイサイド。転倒こそまぬがれたものの、立ち上がりの加速が鈍り、後方集団にのみこまれてしまう。

「でも、あのハイサイドで、それ以降は冷静に走ることができた」という藤原は、ハイペースでトップ集団を追走。18周目に伊藤をパスし、トップへ。この2人にケビン・マギーが追いつき、3台によるトップ争いが展開された。順位の入替えこそないものの緊迫したムードでむか

えた最終ラップ。第2ヘアピンからバックストレートにかけて伊藤がチャージ。

しかし藤原は最終コーナー入口でこれを抑え、まっ先にチェッカーを受けた。コンマ2秒差の勝利。藤原にとっては91年5月以来、約1年ぶりの優勝。ウィニングランでは観客やオフィシャルの声援に応えながら何度も左手をあげ、ためらうことなく喜びを体一杯で表わした。

「今日は満足できる内容。今後この調子で頑張りたい」と語った。

また筑波を走るのが今回初めてのケビン・マギーも、

「手の痛み（第1戦の転倒）もひどく、完全な調子ではなかった。木曜日から走り、50周ほどで決勝レースとなったが、エンジンイイできていい気持ちだ」と満足そうだった。



約1年振りの優勝に表情も明るい



藤原(2)は、追いついてきたマギーを抑えながら伊藤にチャージ。18周目にトップに立った

Racing
RExpress



●世界選手権モトクロスシリーズ 3ヒート制導入で スプリント化する激戦区開幕

40分×2ヒートが、今シーズンから25分×3ヒート制となり、よりスリリングなレース展開が予想される世界選手権モトクロスシリーズ。開幕戦は4月5日、オランダで行なわれた。

今年からヤマハに移籍したM・ベルプはサンドを得意とするライダーで、このレースを、2・3・7位でフィニッシュ。総合3位の成績を収めた。



今シーズンからYZを駆るベルプは、総合3位と順調なスタート。

続く第2戦、スイスGPでは、やはり今年からヤマハに乗るR・ムーアが好走。

ヒート2で優勝を飾り、総合でも2位となった。A・プザール、S・ヨハンソンも確実にポイント圏内でフィニッシュしており、それぞれランキング4、5位につけている。シリーズは全12戦、最終戦の日本GPまでの5カ月間は、世界各国で激しいヒートが展開されるだろう。



F1 マイナートラブルを解消し 勝負はヨーロッパラウンドへ



苦しいレースが続くS・モデナだが

初ポイントに期待が集まる「サウル・ジョーダン ヤマハ チーム」だが、第2戦メキシコ、第3戦ブラジルと、苦戦が続いている。

メキシコGPでは、決勝前のウォームアップ走行で、モデナが最高速をマークするも、結果は2台ともリタイア。

4月5日に開催されたブラジルGP。予選12番手スタートのモデナは1周を終えてピットイン。3・4速が使えなくなるといふギヤボックスのトラブルでリタイア。地元ブラジルの声援を受けるグー

ジェルミンは、21番手スタートから一時は6位まで上がるが、これもギヤボックスのトラブルにより、リタイアを決定。オーバーヒート対策を施したエンジンが

好調だっただけに、残念な結果に終わった。ヤマハの木村リーダーは「エンジンは少しずつ進歩していると思う。ヨーロッパラウンドが始まったらフルペースで行きたい」と語った。

同チームは4月21日から24日にイモラでテストを行ない、万全を期してバルセロナに乗り込む。

●全日本ロードレース選手権シリーズ

第2戦/筑波(4/5)

(500ccクラス)

①藤原誠彦 ②伊藤真一 ③ケビン・マギー

④本間利彦 ⑤辻本聡 ⑥新波朗

(250ccクラス)

①岡田忠之 ②青木宣篤 ③難波泰司

④西田補賢 ⑤生見由起生 ⑥沼田憲保

(F-1クラス)

①武石伸也 ②永井康友 ③青木正道

④北川圭一 ⑤大坂賢治 ⑥柳川明

●世界選手権モトクロス

第1戦/オランダGP(4/5)

(ヒート1)

①E・エバートセン

②M・ベルプーツ ③S・エバーツ

(ヒート2) ①S・エバーツ

②A・プザール ③M・ベルプーツ

(ヒート3) ①S・エバーツ

②S・エバートセン ③R・ヘーリング

第2戦/スイスGP(4/12)

(ヒート1) ①S・エバーツ

②T・バーカー ③J・トブ

(ヒート2) ①R・ムーア

②S・エバーツ ③T・バーカー

(ヒート3) ①T・バーカー

②M・ダイヤモンド ③P・ベコーネン

●世界選手権ロードレース

第2戦/オーストラリアGP(4/12)

①M・ドゥーハン ②W・レイニー

③D・ピーティ ④K・シュワツ

⑤D・チャンドラー ⑥E・ローソン



まだまだ高いモータースポーツ熱
お店単位のレース観戦で
お客さまとのコミュニケーションを向上!!





雨の中、熱心な6万8000人のファンが鈴鹿サーキットに駆けつけた

日本のGPのY.E.S.S.ステーションでは、スタッフサービスとしておしるこが配られた



3月29日、鈴鹿サーキットを皮切りに開幕した世界選手権ロードレース。モータースポーツチームのピークは越したと囁かれながらも、雨という最悪のコンディションの鈴鹿に今年も6万8000人のファンが駆けつけた。例年どおり、会員サービスのために設営されたY.E.S.S.ステーションにもたくさんのY.E.S.S.スタッフが訪れ、まだまだモータースポーツへの高い関心があることを示している。

「スタンドにいと浮いてしまう年齢になりましたけど、ロードレースの観戦はやめられませんね。今日も仕事の都合をつけて昔の仲間4人と来ました。」

魅力ですか？ 限界に挑む人間の力と、レーシングマシンの機能美、このふたつに尽きますね。もう少し若かったら、ぜひ自分でもやってみたかったなと思います。」

と話すのは、東京から来た加藤正雄さん。今年で36歳になる会社員だが、若いファンに負けないファッションで観戦を楽しんでいた。加藤さんは「Y.S.P.京葉」さんのお客さま。今回のチケットもお店ですすめられて購入したそうだ。

「日本グランプリと8耐は、必ず来ています。Y.E.S.S.ステーションにはその度に寄らせてもらってますよ。」

浜松から来た羽賀仁美さんは、たったひとりで自走してきた根性派。南紀シーリングを兼ねて、6泊7日のスケジュールで旅を楽しんでいるとのこと。

「Y.E.S.S.ステーションでこちそうになったおしるこ、とてもおいしかったです。」
と話しながら、夢中で藤原儀彦選手の応援を楽しんでいた。

また、大阪市内から14名の団体が来たグループは、金曜日の午前3時に集合。予選日のゲートオープン前から並んでいたそうだ。その中のひとり鈴木欽也さんは、今回が初めてのレース観戦。200ミリの望遠レンズを片手に、スタンドからの撮影にトライしていた。「スクーターレースは撮ったことあるんですけど、さすがにスピードが違いますね。今度来る時にはパッドックの撮影もしてみたい」と鈴木さん。レースの撮影に必要な機材も充実させたいと考えているそうだ。

モータースポーツのシーズンも、これから本番。Y.E.S.S.ショップの単位で観戦ツアーを企画したり、ツーリングと組み合わせるなど、お店をあげて楽しめる要素は盛りだくさん。レース観戦をキッカケに、ますますお客さまとのコミュニケーションを深めたいものだ。



Y.E.S.S.ステーションでは、Y.E.S.S.の入会案内や各種活動のインフォメーションが展開されている



遊びが橋渡しをするショップオーナーと お客さまとの仲間意識

「面白いこと」への興味を提供し、満足させるショップオーナーの奮闘

MOTO SHOP BIG LIFE 宮城県仙台市青葉区栗生4-12-1 ☎022-392-6315

川下りにモーターバラグラライダー
遊びの達人を中心に集まる仲間

「すぐに迎えに行きますから。15分ほど待っていてください」

仙台駅に着いた、と連絡する電話の向こうで声の主は続けて、「紺色のトラックなので声をかけてくださいね」と言って切れた。

迎えのクルマが来るまでの15分で、カメラマンと今回の取材の最終打合せをした。——取材するお店の名前は『BIG LIFE』であること、お店は仙台市郊外の青葉区にあること、お店はオフロードを中心として色々な遊びを提供していること、などなど。

しばらくすると、駅前で客待ちをするタクシートの洪水を泳ぐように、紺色のトラックがやって来るのが見えた。

アメリカ製のV型8気筒、5000ccのエンジンを積んだトラック。アメリカ、それも西海岸のイメージだ。ドアを開けて降りてきたのは、ポップなカラーのスエットシャツを着た、30ちよっとすぎの人だった。

「ヤマハニュースさん?」

こう聞きながら近づいてきたその方の耳には、グリーンのピアスが付けられている。この人こそ『BIG LIFE』の代表、庄子康弘さんだった。

お店へ向かう道は仙台市街から山形方面へ伸びるバイパスである。開通したばかりだというバイパスのクルージングを楽しみながら、庄子さんの話に耳を傾けた。

庄子さんは36歳、お店を8年前にオ



カヌーやパラグライダーなど、直接オートバイとは関係ない遊びも盛んだ

ーブンさせた。その前は国産4輪の営業マンだったとか。

「こんなビックアップのトラックが好きでね」という庄子さんは営業にもトラックで飛び回っていたというから、型破りな営業マンだったのだろう。

「着きましたよ」

お店を見て、思わず笑みがこぼれてしまった。

中には展示された3台のオフロードバイクを中心に、溪流釣りのロッドやルアー、ポップな看板、スキー板、プロペラの付いたエンジン……おもちゃ箱をひっくり返したような賑やかさ、いや、お店そのものがおもちゃ箱だ。「そのプロペラの付いたエンジンはモ

ーターパラグライダーのものでね、釣りはルアー、フライ(フィッシング)どっちも。スキー板は……いけね、出しっぱなしだったなあ、ハハハ」

ちょ、ちょっと待ってほしい。遊び上手とは聞いていたが、この店ではいったいどんな遊びをしているのだ。

「え」と、エンデューロはバイクショップだから当然として、溪流釣りにサーフィン、スノーモビルもやるしキャンプ、川下り、音楽ではバンド。そう、カニ取りもやるな、ハハハハ」飄々とした口調で、庄子さんの口からは次々と遊びの名前が出てくる。川下りにカニ取りだって!? どう見てもバイクショップのイメージとはつ

ながらない。

「川下りは、山形の朝日町で毎年『全国激流イカダ下り選手権』が開催されているんです。町が木の電柱で作ったイカダを用意してしましてね、3人1チームでエントリーするんですよ。今年で10回目かなあ、ウチは2回目から参加していますよ」

最上川上流の激流8キロをタイムトライアル方式で競うこのイベントに、お店ではお客さまを引き連れて10チームほどをエントリー。一昨年はなんと優勝してしまったとか。

「毎年参加しているんで、朝日町では『BIG LEEF』の名前は有名ですよ」と庄子さん。

しかし、これほどのイベント数をこなすとなると庄子さんの身体がもたないのでは、と老婆心もおきる。

「いやあ、どの遊びも僕がやりたいからやっている。でも一人で遊ぶのは好きじゃないから、それならお客さんも誘おう、と」

例えばサーフィン。好きなサーフィンをするために、庄子さんはまだ暗い早朝の町を飛び出す。前夜にお客さまに声をかけておくと、早朝にもかかわらず皆が集まってくるとか。

「朝から波に乗るでしょう、しばらく楽しんで僕は店を開けに戻る。仕事のあるお客さんもそのまま仕事場に向かうんですよ」

仲間になったお客さまには、「さん」付けはやめている
 「さん」をやめることで親近感と仲間意識が生まれる

まずは勝手にながら
今日は遊んでおります

遊ぶは、まずお客さまの興味を引き出してあげる スタッフとして参加してもらおうこと



イベント運営をも楽しんでしまう



昨年の大会は初回にもかかわらず大盛況。今大会の問い合わせも多い



ショップが主催する「東日本2DAYS エンデューロin 定義」の全体会議では、昨年の経験に基づく意見が積極的に交換された

庄子さんの話を聞いていると、ショップオーナーとお客さまという壁が感じられない。仲間がたまたまショップオーナーであり、お客さまだった、そんな印象だ。

「そうだね。ウチの店では仲良くなったからお客さんでも『さん』付けでは名前を呼ばない。年下は呼び捨て、年上なら『チャン』かな。アメリカでは親しくなったらだれでもニックネームで呼び合うでしょう、『さん』をやめることで親近感も出るし、仲間意識が生まれるんだよ」

「BIG LIFE」のイベントは、誰でも参加OKだ。お店のお客さんでなくても、である。

「何か遊べるものを期待して来店してくれるわけだし、1回一緒に遊べば

もう、仲間ですよ。一緒に遊んでいるうちに、うちでオートバイを買ってくれたりね。遊びあつての……という感じですね」

参加台数200台以上のエンデューロ開催に奔走

庄子さんに初めて会ったとき名刺をもらった。名刺にはお店の名前と、庄子さんの名前が記してある。ふと、住所の上に記載された文字が目が行った

「東日本エンデューロin 定義事務局」

これはどんなイベント……？

「ウチが筆頭主催で昨年に初めて開催した2日間のエンデューロレースなんです。場所はここからちょっと行った仙台市の大倉にある牧場地跡だね」

エントリー台数を聞いて驚いた。参加台数211台、総勢268名。とてもじゃないが、思いつきで開催できるようなイベントではない。コースも既存のモトクロスコースではない。

「僕はMFJの役員もやっているから多少のノウハウは持っていた。2日にわたるエンデューロといえば北海道の日高や当麻が有名だね。でも、北海道のレースにエントリーするには日にちもかかるし、お金もかかる。もっと身近な場所で、風景も楽しめるエンデューロレースはないものかと考えて、よし、それなら俺がやろうとね」

牧場跡地を借りるのに、牧場の組合にかけあつた。バイクのイメージが良くないと知ると、ビデオを見せて回って説得にも努めた。もちろん庄子さん一人の手では間に合わない。お客さんなどの仲間にも手伝ってもらい、地元

の新聞社やテレビ局の後援を仰ぐ一方で会場の設営にも奔走した。仲間は機材を持ち寄り、報酬なしで仕事を、楽しんで、やってくれた。

「おかげでね、僕たちが思い描くエンデューロが開催できたんだ。スタートではライダー一人ひとりをお立ち台で紹介してね、コースまで治道の人たちの歓声を浴びて走るようにして。パリタカみたいで気分がいい。って好評でしたよ」

東日本2DAYSエンデューロin 定義は今年も6月6日、7日に開催されることが決まっている。庄子さんのお話しの後、全体会議が開かれるというのでうかがってみた。

会議では広報部会、運営部会など各部会から進行状況の報告がなされる。皆、真剣で、とても手弁当でやっているとは思えないほどだ。

報酬がないことにスタッフは本当に不満がないのだろうか？ 傍らの庄子さんに尋ねてみた。庄子さんは、「レースが終わったら、スタッフのみんで温泉に行って酒飲んで、ごころ

うさん」で納得してくれているよ」と言う。

会議でのスタッフの目を見ていて、そのときふっと気づいた。どの目も、遊びを語っているときの庄子さんの目に似ていたからだ。

「遊びはまずお客さんの興味を引き出してあげる。オフロードに興味のないお客さんでも、ほとんどスタッフとして参加させるんだ。身近でエンデューロの迫力を体感したお客さんは、すぐにオフロードバイクに乗り換えるよ」

一緒にイベントを作り上げる。楽しむ気持ちがあれば、これも遊びなのだ。何よりも必要なのは遊びに貪欲であること、そして真剣に遊ぶということなのではないだろうか。



遊びの達人、庄子社長(中央)と、山口さん(左)、店長の嶺さん

ハローナイスショップ
Hello
 NICE SHOP



■MOTO SHOP BIG LIFE

J R 仙台駅から東に10km程、新興住宅地として開発が期待される青葉区にある。店舗は仙台と山形を結ぶ国道48号線と愛子バイパスに挟まれた住宅地のなかに立地する。東北自動車道・仙台宮城ICから車で5分程。海、山、川に行くにはいずれも程よい距離で、遊びのベースキャンプとしてはもってこいの条件といえる。

●オープン：昭和58年8月 ●店舗規模：約25坪の敷地に10坪のショールームスペースと5坪のサービススペース。残りの10坪が車両展示および駐車スペースとなる ●展示台数：ショールーム内は新車4台、オープンスペースには中古も含め7台ほど展示 ●商圏：店舗を中心に半径およそ6〜7kmが中心 ●客層：学生、社会人を問わず、20代を中心に幅が広く女性客も多い ●クラブ：RSCピッククライフ（エンデューロレースやツーリングがメイン） ●営業時間：午前9時〜午後7時（日曜日は午後5時まで） ●定休日：毎週水曜日



店内のいたるところに遊びの要素が展示されている



ショールームは、店とユーザー、そしてユーザー同志の語らいの場だ



